

令和5年度熊野古道協働会議・第1回分科会 発言要旨

日時：令和5年8月9日（水）15時～17時

場所：三重県立熊野古道センター 小ホール

* 事務局において、意見交換での発言要旨を内容ごとにまとめました。

「○印」は参加者からの意見、「●印」はその意見をふまえた意見交換・質疑応答のまとめです。

【紀北町熊野古道連合会】

- 紀北町には4つの保全団体があるが、近年は会員の減少や高齢化等により単独での活動が困難になってきており、今年4月に連合会を発足した。
- 共同で各峠のパトロールを行って、改善が必要な3か所を選定し、9月以降に景観整備をしていく。集客交流事業についても、運営スタッフと予算を集結して、各峠で順番に共同開催する予定。
- 組織を大きくすることで周知効果が高まったり、地域に対する経済波及効果にもつながればと思い、連合会を設立したが、後継者がいないため、会員を増やせるよう検討していきたい。

【伊勢路全体の保全を統括する組織】

- 紀南エリアでは、保全団体は少人数のところが多く、紀北町の先行事例に学びながら、連合会をつくっていききたい。
- 熊野古道伊勢路を守る会は北部4町にまたがっているが、町ごとに保全に対する取組や考え方が違い、まとめるのは大変難しく感じている。今日は伊勢路全体の保全を組織化していくことを協働会議の分科会で検討しているが、保全体制は市町毎で違いがあるため、保全団体だけで進めるというのではなく、市町の行政も入ってもらって進めた方が効率が良いのではないかと思う。
- エリアごとに、熊野古道サポーターズクラブのような応援団があるとよいのではないか。自分たちの活動だけではPR力が弱く、まずはサポーターから入って、後継者を集める方法もあると思う。
- 伊勢路全体で熊野古道サポーターズクラブがあり、各峠に応援団があっても乱立してしまう。メールマガジンがあるので、各保全団体の活動について発信することはできる。

- 各保全団体では、これまで約 20 年間いろんな活動をされてきたと思うので、その体験を元に、伊勢路全体の望ましい保全体制をつくっていききたい。

【保全活動の望ましいスタンダード（標準）】

- スタンダードを実現するための人員数は妥当だと思う。紀北町の場合、道普請や橋の架け替えの原材料は町が購入して支給するが、各団体で実際に道普請や橋の架け替えをする場合は5万円では足りないと思う。
 - 何かを整備する時の原材料は高額なため、資料のとおりの資金では足りないかもしれないが、最低でも今後 150 万円が必要。支援いただける企業を募って、社員研修や福利厚生で来ていただくことも考えられるので、今後企業との関係を築いていきたい。
- 昨年度に実施した調査によると、各市町で支援状況に違いがあることが分かったので、各市町で話し合いながら、伊勢路全体で標準化された支援体制が必要だと思う。

【担い手確保・資金確保】

- 地域おこし協力隊という制度があるが、熊野古道の保全に取り組んでいる事例はあまり聞いたことがない。外から来る人も交えながら活動していきたい。
 - 地域おこし協力隊は、基本は市町が隊員を採用して、最大3年間の任期で特定のテーマを達成していただき、地域への定着を図る制度。「熊野古道の保全」というテーマもあるかと思うので、役所に相談していただくとよいと思う。
- 地域の祭も担い手が不足している状況のため、県教育委員会では「みえ祭協力隊」を結成して、地域の子どもたちが祭を取材して成果を発表する取組を始めた。このようなマンパワーによる課題解決の方法も考えられる。
- 尾鷲藪漕隊は、尾鷲市街地を囲むトレイルと浦々を結ぶ生活古道を歩けるように整備している。熊野古道は身近な古道なので、月1回でも保全の手伝いができればと思っている。イベント的に整備する機会があれば参加したい。
- 企業がボランティア活動を対外的にアピールするため、成果を報告するのはどうか。報道機関に活動後の写真を送れば、取り上げてくれるところもある。
 - 活動前や活動後に、活動内容や写真等の情報を頂ければ報道機関に資料提供できるので、個別に相談してほしい。

- 来年の世界遺産登録 20 周年に、協力企業に対して、感謝の意を込めて表彰するのはどうか。
- 20 周年については検討中だが、寄付金の贈呈式や、15 周年の式典では保全団体と協力企業に感謝状をお渡しした。

- 協力企業の従業員に峠のウォーキングをセットすれば、PR 力もあると思う。
- 細かい対応は難しいかもしれないが、感謝状をお渡しするだけでなく、福利厚生で来ていただけるようなことも考えたい。

【熊野古道サポーターズクラブ】

- 昨年度、逢神坂峠の活動後に交流会を開催した時に、より多くの人たちに参加してもらうにはどうしたらよいか、という話をした。参加者からは、清掃ウォークだけでなく、語り部と一緒に峠を歩いて懇親を深めるのはどうか、というご意見があり、事務局に語り部とのウォークイベントを提案した。
- 語り部で保全活動をやっている人も多く、持続的な関係性の構築ということで、ぜひ一緒に歩くことができたらと思う。
- サポーターズクラブは保全だけでなく、PR もサポート活動としている。語り部とのウォークイベントに経費が必要であれば、ボランティア精神だけでなく、幅広いご協力を得ながら、企業からの寄付金の使用も検討したい。

- 大吹峠では石畳が大きく毀損しており、文化庁にも相談して、状況を確認するために、5、6月にセンサーカメラを設置した。おそらくタケノコを食べに来たイノシシによる獣害だと思われる。修復方法を検討していくので、サポーターズクラブにも協力してほしい。

【その他】

- 学校教育で熊野古道について積極的に取り入れてもらいたい。将来の担い手となる子どもが自分たちの宝物に気づくことが大事。語り部や保全団体の人が講師となるのはどうか。
- 熊野古道や三重県南部の歴史についての教材を企業と一緒に作ったらどうか。教員用のスライドも作成したら、教える先生の負担軽減にもなる。
- コロナ禍に修学旅行を誘致するために小中学生向けのパンフレットを作成したので、活用していきたい。